

脳疾患患者の健康関連QOLに影響を及ぼす因子

The factor which has on a brain disease patient's health-related quality of life

○泉 良太 (OT)¹⁾, 佐野哲也 (OT)²⁾, 宮本靖大 (OT)³⁾, 能登真一 (OT)¹⁾, 上村隆元 (Dr.)⁴⁾

¹⁾新潟医療福祉大学医療技術学部作業療法学科, ²⁾浜松医科大学医学部附属病院リハビリテーション部, ³⁾協立十全病院リハビリテーション科, ⁴⁾杏林大学医学部衛生学公衆衛生学教室

Key words: 健康関連QOL, 作業療法, (HUI3)

【はじめに】作業療法 (OT) 分野においても機能レベルや能力レベルの評価に加えて, QOLレベルの成果指標について散見されるようになってきた。そのQOLの中でもOTなどの医療行為により変化が期待できるものが健康関連QOL (HRQL) と定義され, OTを含めたアウトカム研究には欠かすことのできない指標と考えられている。先行研究では在宅脳卒中患者のHRQLに影響を及ぼすADL因子として移動能力, 更衣, 話し言葉, 行動範囲であることを示している。しかし, OTを実施する環境としては病院・施設が多いため, そこでのHRQLの調査が必要であると考えられる。【目的】病院でOTを受けている脳疾患患者において, OT開始時と終了時のHRQLに影響を及ぼす因子を明らかにする。【方法】研究デザインは多施設間の横断的研究とした。対象疾患は脳疾患とし, 入院中にOTを受けた患者を対象にした。HRQL尺度には健康効用値尺度であるHealth Utilities Index Mark 3 (HUI3) を用い, OT開始時と終了時に評価を実施した。健康効用値は1を完全な健康, 0を死とする間隔尺度であり, HUI3の最低値は-0.36である。HUI3は視覚, 聴覚, 会話, 移動, 手指の使用, 感情, 認知, 疼痛という8つの寄与領域を4~6段階で評価を行い, Global scoreとともに, 寄与領域ごとのSingle scoreも同時に求めることが可能である。統計解析についてはHUI3の健康効用値を従属変数とし, FIM得点 (総得点, 運動得点, 認知得点, 18項目の各得点) および年齢, 性別, 転帰, 発症からOT開始までの期間, OTを受けた期間, Modified Rankin Scale (MRS) を独立変数としてステップワイズ法による重回帰分析を行い, OT開始時と終了時のHRQLに影響する因子について検討した。有意水準は5%未満とし, 解析にはSPSS Statistics 19を使用した。本研究の実施に当たっては, 評価の前に紙面上で本人または家族に説明を行い, 同意を得た。【結果】対象者は296名 (平均年齢71.2±12.6歳, 女性123名) であり, 転帰は自宅退院50.3%, 転院42.9%, その他6.8%であった。発症からOT開始までの期間は25.1±29.3日, OTを受けた期間は58.5±53.3日であった。OT開始時のHUI3の健康効用値は0.01±0.33, FIM得点は63.0±36.3点, MRSは3.9±1.1, 終了時のHUI3の健康効用値は0.17±0.40, FIM得点は80.4±38.1点, MRSは3.3±1.4であった。OT終了時の健康効用値, FIM得点, MRSは開始時と比較し, 有意に向上した。重回帰分析では, 開始時にはFIM項目の更衣下衣 ($\beta=0.254$), 階段 ($\beta=0.106$), 表出 ($\beta=0.186$), 記憶 ($\beta=0.187$) およびMRS ($\beta=-0.341$) が有意な独立変数としてモデルに採択された (調整済み $R^2=0.861$, $p<0.001$)。終了時にはFIM項目の階段 ($\beta=0.181$), 表出 ($\beta=0.120$), 問題解決 ($\beta=0.171$), 記憶 ($\beta=0.161$) およびMRS ($\beta=-0.413$) が有意な独立変数としてモデルに採択された (調整済み $R^2=0.873$, $p<0.001$)。【考察】本研究により, OT終了時には開始時と比較してHRQL, ADL, MRSが有意に向上していることが分かり, 重回帰分析の結果, OT開始時には更衣下衣, 階段, 表出, 記憶, MRSがHRQL要因の86%を説明でき, 終了時には階段, 表出, 問題解決, 記憶, MRSがHRQL要因の87%を説明することができた。したがって, FIMの認知項目がHRQLの因子として重要であり, 運動面に加えて認知面へのアプローチが多いOTにとって, 対象者のHRQLを向上させるのにOTが有用であることを示している。【謝辞】本研究にご協力・ご助言いただいた協力病院の先生方に深謝申し上げます。なお, 本研究は文部科学省科学研究費補助金の助成を受けたものである。